

1. 評価結果概要表

作成日 2009年5月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2671900252
法人名	社会福祉法人 清和会みわ
事業所名	グループホーム すこやかの家
所在地	〒620-1424 京都府福知山市三和町友淵大原野 (電話) 0773-59-2525

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年3月16日	評価確定日	平成21年5月31日

【情報提供票より】(平成21年3月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.41 人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	344 円	昼食	516 円
	夕食	573 円	おやつ	90 円
	または 1日あたり		円	

(4) 利用者の概要(3 月 2 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福知山市民病院 綾部市立病院 ルネス病院 瑞穂病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福知山市三和町で、兵庫県篠山市に隣接した小高い丘の上に新築されたグループホームである。平屋の洋風建築であるが、内部は畳、コタツ、衝立、暖簾など、家庭的で利用者の住み慣れた空間にするように工夫されている。隣接の特養の行事に地域住民が来て交流している他、買い物や喫茶店、温泉、地域の祭りに始終出かけている。家族はホームを気軽に訪れ、年4回の家族会ではカラオケで熱唱している。利用者は畑での作業を楽しみにし、敷地内にある観音像にお参りしている。施設長、管理者、職員全員が「利用者本位の介護」「その人らしい生活の支援」について共通理解し、取り組んでいる。地元産の食材による手作りの食事、夜間帯も含めた毎日の入浴、日常的な外出と季節ごとのお出かけなど、グループホームに求められる大切なケアが十分に実現している。さらに研修の充実による職員の向上心の支援、センター方式によるアセスメントとそれを反映した個別・具体的な介護計画とその実施など、高いレベルのグループホームが実現している。利用者は畑仕事に精を出し、互いにいたわりあったり、仲良し3人組とおしゃべりしたり、その人らしい生活ができています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された点として、センター方式によるアセスメントの実施、ターミナルケアの指針策定、災害時の地域との協定、家族との関係の充実等が改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価にあたって、自己評価は職員全員が書き、それをまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、三和町区長、福知山市福祉課長、市社協職員、知見を有するものとして元社会福祉法人副理事長がメンバーとなり、隔月に開催され、議事録が残されている。ヒヤリハットや事故などについても報告し、メンバーと一緒に検討し、アドバイスなどをもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会があり、年4回開催されている。利用者とともにお弁当を食べてカラオケを思いっきり歌ったり、年末には大掃除を手伝ってもらい、1年間のホームでの様子をスライドで見せて、職員の演芸と寄せ鍋を楽しんでもらう。娘の唄に掛け声をかける利用者やおばあちゃんが元気に歌っているのが嬉しいと涙を流す家族もいる。手を使ったこんな手芸があると提案してくれる家族もいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは小高い丘の上にあり、地域住民が日常的に来訪するのは難しいが餅つき大会、運動会、ゲートボール大会等園での行事に来訪される。花火、夜店、演芸、盆踊り等の夏祭りには200人くらいが来訪されている。地域交流ホールではコンサートや和太鼓の演奏などがあり、住民の参加が多い。グループホームの利用者も参加する。保育園、小学校の運動会を見に行ったり、買い物や喫茶店には日常的に出かけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	みわの里の理念「健康福祉タウンの拠点としての高度な福祉事業の展開、利用者と地域との交流の場の創出」はパンフレットに明記されている。グループホームとしての理念は職員みんなで話し合い、「その人らしい生活」を掲げ、ホーム内に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を業務のなかで実現するために、東京センター方式でアセスメントをとり、利用者一人ひとりの好きなこと、したいことを聴取し、支援している。畑仕事や芝居が好きな人には観に行けるように、お化粧をしたい人にはファンデーションの買い物に付き合うなど、生活の継続を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは小高い丘の上であり、地域住民が日常的に来訪するのは難しいが餅つき大会、運動会、ゲートボール大会等園での行事に来訪される。花火、夜店、演芸、盆踊り等の夏祭りには200人くらいが来訪されている。地域交流ホールではコンサートや和太鼓の演奏などがあり、住民の参加が多い。グループホームの利用者も参加する。保育園、小学校の運動会を見に行ったり、買い物や喫茶店には日常的に出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価にあたって、自己評価は職員全員が書き、それをまとめている。前回の評価で指摘された点として、センター方式によるアセスメントの実施、ターミナルケアの指針策定、災害時の地域との協定、家族との関係の充実等が改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、三和町区長、福知山市福祉課長、市社協職員、知見を有するものとして元社会福祉法人副理事長がメンバーとなり、隔月に開催され、議事録が残されている。ヒヤリハットや事故などについても報告し、メンバーと一緒に検討し、アドバイスなどをもらっている。		

京都府:グループホームすこやかなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	三和町からの要請で、みわの里、地域包括支援センター、保健センター、居宅介護支援事業所等が話し合っており、認知症について住民に理解してもらうための研修や介護教室を開催し、講師として地域貢献している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「グループホームすこやかなの家」は年4回発行され、家族に送付されている。写真が一杯掲載され、利用者の楽しそうな様子が伝わってくる。その他、一人ひとりの利用者の担当職員が手書きの手紙を毎月送っており、様子がよくわかってうれしいと家族に喜ばれている。家族の面会は多く、毎週来る人もある。衣替えのときには必ず来て衣類の整理をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、年4回開催されている。利用者とともにお弁当を食べてカラオケを思いっきり歌ったり、年末には大掃除を手伝ってもらい、1年間のホームでの様子をスライドで見せて、職員の演芸と寄せ錦を楽しんでもらう。娘の唄に掛け声をかける利用者やおばあちゃんが元気に歌っているのが嬉しいと涙を流す家族もいる。手を使ったこんな手芸があると提案してくれる家族もいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年離職はなく、特養との職員交換が1人あった。利用者には挨拶はせず、時々遊びにきてくれる。グループホームでの利用者や職員との馴染みの関係を大切に、安易な職員異動は行わない方針である。離職を防ぐ工夫として年2回の懇親会の他、常勤会議を開催し、運営に関する原案作成、日頃の情報交換等を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に勉強したいテーマのアンケートをとり、毎年内部研修の計画が立てられる。その中には、接遇、認知症、感染症、緊急対応、ターミナルケアという5つの必須テーマが毎年含まれ、これは全職員が毎年受講している。外部研修については情報提供で受講を促したり、受講の命令が出される場合もある。資格取得にも支援され、取得後は手当が支給される。職員個人の課題は年2回の施設長との面談で話し合われ、支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホームみやま」とは職員レベルの交流研修を行なっている。「グループホームわたしの親元」からは職員が見学に来訪され、職員の交流ができています。他のグループホームで半日過ごしてきた職員は意識が変わる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始の前には利用者や家族は見学に来て、2時間くらい話していく。利用が始まった後、なるべく早く馴染んでもらうために生活の継続を目指している。利用者が自宅で使っていたものを家族にもってきてもらい、同じ位置に置いてもらっている。娘に電話をかけるためにケータイを持ち込んでもらい、毎日かける利用者もいる。妻が特養に入所している夫を毎日特養に連れて行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長い道のりを歩んできた人の言葉は重いと、心に深く受け止めている。今でも長男のことを気にかけて食べ物を残そうとしたり、病気がちだった長男の嫁のことを心配したりしている利用者の優しい気持ちにうたれる。息子にここへ捨てられたと思っていた利用者が今は、「ここはいいところや。よくしてもらってうれしい。ええとこへ来た」と言われたときは涙が出た。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式によるアセスメントをしており、利用者の生活歴がかなり詳細に記録されている。「私の不安、苦痛、悲しみ」「私の介護への願い」「私が嬉しいこと、楽しいこと」「私がやりたいこと」のシートは職員全員が記録し、合わせて介護計画の検討に生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	上記の情報により、一人ひとりの利用者個別・具体的に生きがいのある生活のための介護計画が作成されている。毎日観音さまにお参りする、特養に入所している妻に会いに行く、好きな温泉に連れて行く、短歌をつくる等々、個別ケアのための介護計画になっている。介護計画は職員が検討したものである。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の支援経過は、時間をおいて「個人記録」に記録したものと、「個人生活記録」とがある。介護の実施の記録があるが、その際の利用者の様子等の記録は少ない。モニタリングはケアマネジャーが毎月行っているが、介護計画の項目にそったものではない。カンファレンス会議は結論のみが記録されている。	○	利用者に介護を実施したかどうか、実施したときの利用者の表情や発言、実施しようとして拒否されたときにはその原因についての考察等を職員が記録に残すことが望まれる。書式は2通りあるのは検討することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	園内に特養があり、行事やボランティアとの交流にはグループホームからも参加している。デイサービスの利用者はグループホームに来訪し、利用者同士の交流をしている。ホームの利用者が特養に入所している妻に毎日会いに行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族が受診同行しており、グループホームでの状況を知らせ、医師からはホームの協力医宛に結果が送られてくる。精神科やガンなどの受診は家族とともに職員も同行している。内科医は週2回往診してくれている。歯科医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	『看取り介護に関する指針』が策定されており、基本姿勢、具体的手順、研修内容、協力医療機関との連携等が決められており、「お別れの場の準備もする」と書かれている。利用者や家族には同意書を取り、グループホームでの看取りを希望する人が多い。医師は内科の開業医が週2回往診してくれており、協力が得られる。看護師は訪問看護を利用している。職員研修は看護師を講師として実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室のドアもトイレのドアもなかから施錠できるようになっており、かける利用者もいる。トイレ誘導などの声かけには十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の起床は4時半ころに起きる人もおり、遅い人は8時ころである。就寝も夕食が済むとすぐ6時半ころに寝る人から、11時までテレビを見ている人までいろいろである。日課は利用者の自由である。		

京都府:グループホームすこやかなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の管理栄養士が献立を立て、食材を調達してくれる。時には独自の献立もある。調理から味付け、食器洗いまで利用者の当番制で行っている。鍋料理やホットプレートなどを使った料理もある。外食にも出かけている。野菜は地元産のもので時には畑で採れたものが使われる。食卓には猪口や小さな湯飲みなどに庭に咲いたふきのとうやスマリなどを飾っている。利用者と職員がゆっくり食事しながら、会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望すれば毎日入ることができ、午後遅くから夕食後の8時半ころまでの時間帯で利用者が希望したときに対応している。マンツーマンの同性介助である。ゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。近くの温泉にも始終行き、利用者の楽しみである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、掃除、洗濯、ゴミ捨て等、利用者は当番制で家事を果たしている。ティータイムに飲みたいものを一人ひとりに聞くのも利用者である。朝起きると一番に玄関を掃く人もいる。貼り絵、塗り絵、カラオケ、ゲートボール等が楽しみとなっている。短歌をつくる人もいる。畑に何を植えるか、植える時期、植え方、土の耕し方、肥料等を職員に教えて、収穫された野菜が食卓にのぼるのは何よりの喜びである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は敷地内を毎日のように散歩したり、畑作業をしている。利用者個人の買い物は車で出かけ、利用者自身が支払いをしている。篠山城へ花見に行き外食、市島に菖蒲を見に行く、綾部市や瑞穂町の花火大会を見に行く、友淵地区の夏祭りの演芸を見に行く、日吉ダムに紅葉狩り、嵐山のひばり座、京丹波町の人形展を見に行く等々、季節ごとのお出かけを楽しんでいる。水族館に行きたい、芝居を見たい、お墓参りをしたいなど、個別外出にも取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地には塀はなく、玄関ドアや勝手口は施錠されていない。居室からや居間からも外に出ることができる。ホームは小高い丘の上にあるので、急坂を下りるのは利用者には難しいが、下りても地域の人には知っているもので、協力が得られる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災について消火器、感知器、通報機、防火管理者等を設置し、スプリンクラーは今後の予定である。消防計画があり、夜間想定も含めた避難訓練を実施している。食料、緊急時の薬品、オムツ等の備蓄を備えている。三和町と地域、みわの里の3者による防災協定書が作成されている。職員は救急救命講習を受講している。		

京都府:グループホームすこやかの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの毎日の食事摂取量と水分摂取量の記録は残されている。献立は特養の管理栄養士が2週間ごとにたてるので、カロリー値や栄養バランスの点検があり、コメントが残されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には味のある字で書いた木製の表札を掛け、いくつもの丸い鉢にパンジーが咲いている。中央の居間兼食堂には2カ所の畳コーナーがあり、明るい窓辺にホームコタツを置いている。障子の衝立の前の火鉢に活けた大きな梅の木に花が満開である。棚にはケースに入った雛人形、畳の上には利用者が作って展覧会に出した男の子と女の子の大きなかかしが並んでいる。居間からは季節ごとに変わる山の風景や利用者がつくっている畑が見え、猿がでてるのも見える。廊下の隅にある椅子に3人の仲良しがいつも座っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は仲間でのベッドと洗面台が備え付けになっている。利用者はタンス、整理棚、衣装ケースなどを持ち込んでいる。絨毯を敷いてホームコタツを置き、その上に花や写真を飾り、本、メモ、筆記用具などを、自分流の暮らしを楽しんでいる人がいる。部屋の隅、棚の上、洗面台、コタツの上など、緑の鉢や花が部屋中に一杯の利用者もいる。ガラス戸一枚で部屋から外に出ることができ、外のプランターで花を育てている人もいる。		